

令和 6 年度

事業所名 : グループホームゆい八木沢

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200376		
法人名	合同会社 ライフサポート・ゆうゆう		
事業所名	グループホームゆい八木沢		
所在地	〒027-0031 宮古市八木沢四丁目5番33号		
自己評価作成日	令和6年11月10日	評価結果市町村受理日	令和7年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常の食事の準備、片付け、洗濯物たみ、掃除等できる所は普段からお手伝いして頂いており、ご本人のやりがいにつながっています。また、お一人お一人、ご自分のペースで生活できるような支援を心掛けています。食事面では一年を通し旬の物、行事食を提供し、季節や懐かしさを感じられるようにしています。近隣に同事業所のデイサービス、グループホームがあり、合同の避難訓練や緊急時には協力し合える環境にあります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東日本大震災の被災により現在地に移転したものであり、三陸鉄道八木沢・宮古短大駅にほど近い住宅街の一角に位置している。定期バスの経路であり地域の方々が利用している道路に面し、近接して同法人のグループホームや訪問介護・居宅介護事業所があり、法人内での連携をとりやすい。理念は、開設当初に代表社員と管理者が協議しながら作成し、職員の意見を聞き、人型イラストのイメージに入れ込み分かりやすくなっている。看取り介護についての指針を作成し、今年度既に看取りを行っており、併せて職員の研修を行い、今後も看取りを行っていく方向にある。施設にはウッドデッキが設置されており、地域の子ども神輿来訪や日光浴等の場として活用されている。消防署立会のもと法人内合同火災訓練のほか、地震及び水害を想定した避難訓練を実施し、合同火災訓練時には近隣の人にも声掛け誘導の訓練に参加してもらっている

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念をホールに掲示している。ケアプラン作成時には特に理念の中の「つながり」を大切にしている。	理念は「人の歴史や尊厳、つながりを大切にする」を掲げ、開設当初に当時の代表社員と管理者が協議しながら作成したものであり、年度始め職員皆で確認し合っている。職員の意見を聞き、理念を人型イラストのイメージに入れ込むことで、職員や利用者・家族、そして地域の人にも分かりやすく、目を引くものとなっている。理念は事務室やホールに掲示しており、日常的にも、また会議等の場でも、職員相互に確認し合いやすいようにしている。新人研修で基本的な姿勢を学んでもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩等で地域の方と挨拶や言葉を交わしている。コロナ化で中止となっていた地域のお祭りが復活し、数年ぶりに子供神輿も回り、GHに立ち寄って頂き交流することができた。	八木沢自治会に加入し、代表者自ら地域の清掃活動に参加しているほか、地域住民と挨拶を交わすなど、コロナ禍にあっても地道に交流を図っている。八木沢神社祭り見学や子ども神輿の来訪等以前からの交流は復活の傾向にあり、中学校や宮古短大の学生とのおつきあいを増やしていきたい、としている。お祭りについては、ウッドデッキにて見学している。運営推進委員は、自治会長や地権者の方にもお願いしている。ピアノ・バイオリン演奏、大道芸人の来訪などもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゆうゆう茶屋の活用を考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、包括、地域住民等の出席があり、情報を頂き参考にしている。又、地域のお祭りでの反省、要望を来年度に活かせるよう、地域の方にも相談している。	運営推進会議は、市役所や地域包括支援センターの職員、自治会長、民生委員、消防分団長、地権者、利用者及び家族代表等の委員で構成されている。8月の運営推進会議は感染症の発生に伴い対面開催は見送り、10月29日の会議は対面開催に戻せたものの、12月はコロナ発生で書面会議としている。毎回家族にも参加いただいております。会議では、看取り後のデスクカンファレンスや地域交流等の多様な意見をいただき、サービスの改善につなげている例もある。会議録を作成し次回に概要等を提示している。	運営推進会議の会議録作成のため等、代表者・管理者以外の職員に交代で参加を促すなど、職員間の共有化を意識して進めていくことも大切であり、今後の検討・実施を期待します。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、包括や市の担当者との連絡、相談を行っている。	関係機関との情報のやりとりは、市の担当者とは代表者が、地域包括支援センターとは居宅部門のケアマネジャーが、それぞれ中心的な役割を果たしている。生活保護受給者の施設利用についても、こまめに市の担当部署と連絡を取り合い円滑に進めている。地域ケア会議には代表者が出席し、市主催の研修にも職員が参加するなど、意識的に関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の中で、虐待について研修を行い、必要な時はその都度話し合っている。	国の身体拘束の手引きをもとに、身体拘束防止に係る指針を作成している。身体拘束適正化委員会は3か月に1回開催し、併せてスピーチロックを含めたケース検討を行うなど身体拘束等の研修の場としている。「職場での暴力ハラスメント」の職場研修も開催し、職員8名が参加している。玄関や居室窓の施錠は、19時から5時まで行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修を行っている。おかしな点は話し合える環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の利用者に権利擁護を利用されている方はおりません。今年度中に研修する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間を掛けて説明している。不安な点、不明な点があればその都度説明している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に外部に苦情相談窓口があることを伝えている。玄関に目安箱を設置している。ご家族来所時に要望、意見を伺うようにしている。	目安箱を玄関に設置し、家族等の意見提出の機会としているが、実際の投函はない。利用者と一対一になれる時間、特に入浴時の利用者との会話を大切に、困っていること、希望等を聞いている。家族からは、通院の付き添いや面会時に、情報交換を行う中で意見や要望を引き出している。基本的に面会は可能としている。これらの情報については職員間で共有し、必要に応じ家族等への回答は口頭で伝えている。関東地区在住の家族には、手紙などで交流を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の所内会議や、日々の申し送りの中で、問題があれば話し合うようにしている。	毎月行っている所内会議には代表者が出席し、職員の意見を直接聞いているほか、年1回代表者・役員が職員との個別面談を行い、勤務時間等の働き方や親の介護など、働きやすい環境についての考えを伝える機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、代表社員、役員との面談を行っている。就業環境についても個別に話し合いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的な参加を促している。毎月所内研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集団実地指導に出席し、情報共有するようにしている。運営推進会議に近隣施設の管理者に出席して頂き、意見や情報を頂いている。		

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安の声に耳を傾けるようにしている。他の利用者との橋渡しをしたり、早く環境に馴染めるよう、職員が動くようにしている。職員に相談しやすい関係性を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご家族から情報を頂き、カンファレンスを行い、サービス内容を検討している。なんでも相談しやすい関係性を作るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	普段の様子をご家族やケアマネージャーからの聞き取り、情報を得るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事(特に家事活動)を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の様子(写真入り)を毎月送付している。通院も可能な方はご家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は短時間だが可能としている。	職員が利用者と同じ地域に居住していた場合も多く、利用者の関係情報の収集に効果がある。コロナ禍の中で、訪問者も減り地域の人との関係も減少した。利用者は、なじみの美容師さんやデイサービス利用者家族との会話を楽しんでいる。なお、家族等との面会時間は制限していない。	

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係性を把握し、席を決めている。トラブルがあれば職員が間に入る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に入院等でサービス利用終了の時も相談に乗り、近況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困っている事や希望をしっかりと聞くようにしている。普段の会話や様子、ご家族からも情報を得ている。	言葉で意思表示できる利用者は5人、仕草から推測している利用者は4人である。利用者が一人である時間や入浴時の、一対一の対応を大切にし、本人の昔話などをゆっくりと聞き、思いに寄り添えるよう努めている。利用者の希望は、食べ物・飲み物の関係が多く、コーヒー等の飲み物の提供は容易だが、食べ物については対応が難しい。散歩についての希望は、秋口までは外の花壇までに行っているのが現状である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活については「利用者情報」をケアマネジャーから得ている。契約時にはご家族からこれまでの生活等を教えて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日三回の健康状態の把握、食事や日中のレク、夜間の過ごし方等、申し送りし、職員間で共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が本人や家族の意向を確認し、職員へ周知している。ケース検討の機会を設けている。	介護計画の作成は、隣接する2つのグループホームを同じケアマネジャーが兼務して行っている。入居前の実態調査の情報や本人、家族の意向を確認した上で作成している。モニタリングについては、各居室担当者の意見を基にして、通院同行時等に家族の考えを伺った上で、所内会議に諮り作成している。計画は、基本長期は1年間のサイクルであるが、短期は3か月ごとに見直しをしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の様子を記録。また、申し送り時に報告し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の得意なこと、好きなことを普段の会話から聞き取り、実行している。(塗り絵、散歩、家事、掃除、お花の手入れ等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	5月の地域のお祭りで、数年ぶりにお神輿(子供神輿も)が立ち寄ってくれた。今後も少しずつ交流を増やしていきたいと思えます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を継続している。ご家族が付き添う時はGHでの様子を伝えている。	利用者は、個々の入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。認知症の症状の進行等、変化が見られた場合には、家族や主治医に相談し、専門医の受診を検討している。基本的に家族同行とし受診時にメモを渡し、結果を口頭で聞いている。職員が付き添った場合には、医師の指示を含め受診結果を家族に報告している。主治医には適宜報告や相談を行い、良好な関係性を保っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	来所時に訪問看護師に相談し、助言、指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	「利用者情報」を作成し、医療機関に情報提供できるようにしている。病院相談員と連絡し、情報交換するようにしている。		

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りが行えることを説明している。GHでできる事等説明しながら、双方納得し支援できるようにしていきたい。	看取り介護についての指針を作成し、職員の研修を実施している。今年度1名を看取りし、看取り研修も行った。運営推進会議の場で委員からは、デスクンファレンスの実施などの意見も出されている。主治医、訪問看護師や訪問薬剤師との連携を保ちながら、家族の同意のもとに、今後も進めていきたいとしている。	今後の看取り実績を踏まえながら、さらなる研修の実施・質的向上を図っていかれるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習、心肺蘇生の講習等を実施している。入職したばかりの職員もいるので定期的に実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は水害、火災等の避難訓練を実施している。火災訓練では地域の方にご協力いただいている。	事業所は、ハザードマップでは洪水浸水区域外に位置している。消防署立会のもと法人内合同火災訓練のほか、地震及び水害を想定した避難訓練を実施している。合同火災訓練時には近隣の人にも声掛け誘導の訓練に参加してもらっている。基本として事業所の2階に垂直避難することとしており、災害時の避難場所は河南中学校となっている。夜間想定訓練も実施しているが、夜間時の訓練実施までには至っていない。	洪水浸水区域外ではあるが、事業所の近隣を小規模な河川が流れている。指定避難所とは少し距離があるものの、大きな災害を想定し、今後の災害への備えとしても、指定避難所への所要時間や経路などの情報を確認しておくことを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は個別としている。居室に入る際は利用者に声をかけてからにしている。	毎年、高齢者の尊厳の保持のための研修を行っており今年度も10名の参加を得ている。トイレ利用時のドアの閉め忘れ、衣服着替え時の選択、利用者・職員一緒に食事、入浴時や就寝時の利用者・職員一対一の会話、難聴者への配慮など、日常的な支援の中で、利用者の自尊心の大切さを意識するとともに、プライバシーの確保につながる対応に努めている。スピーチロックにも十分配慮しながら職員の声かけの内容に応じて、その場で注意喚起を行うとともに、事後においてもどのような対応が適切であったかを、職員間で検討した上で、その結果を共有している。	
----	------	----------------------------------------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの服等本人に選んで頂いている。また、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間は決めておらず、本人のペースに合わせている。(昼寝等も)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は外部の床屋さんを定期的に頼んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な物、懐かしいおやつ等をお出ししている。また、食事の準備や片付けは利用者で行っている。	献立は、利用者の希望を把握した上で担当の職員が作成し、各種行事のメニューに希望を活かしている。誕生会の栗おこわや煮しめをはじめ、ちらし寿司、小麦まんじゅう、流しそうめん、小豆ぱっとうなど季節に応じたものを提供しているほか、職員が採ってきた山菜も食材として活用している。おやつ作りを利用者と職員が一緒に行い、食事と一緒に食べている。食器拭きや食後の後片付けを利用者が行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量はiPadに記録している。水分量が少ない方には工夫し少しずつでも飲んで頂くようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員見守りの下、歯磨き、うがいを行っている。入歯の方は毎晩入歯洗浄をしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	iPadで排泄時間をチェックし、誘導している。日中・夜間も声掛けしている。	現在は、布パン2名、その他オムツが夜間のみ1名であり、ポータブルトイレの利用はない。iPadを活用し排泄チェック表を確認しており、パターン等に応じた個別の耳打ち等の声かけによりさりげない誘導を行っている。日中は、利用者全員がトイレを利用している。便秘予防のため、水分や乳製品を摂り、食事の内容も根菜類を意識している。失禁時には、利用者のプライバシーに配慮し、トイレや居室内での清拭・着替え等を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品を摂る、食事の内容も根菜類を意識している。体操も行っている。また、訪看来所時にお腹が張っていないか確認して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	2、3日に一度の入浴を行なっている。入浴が好きな方々なのでほとんど拒否は無いが、乗り気でない時は順番を変えて対応している。	入浴は、週に2回から3回とし、入浴を拒否する利用者はなく、入浴誘導もスムーズに行っている。利用者が入浴しない場合は、翌日、翌々日でも入浴を行っている。機械浴はない。異性介助は無い。菖蒲湯やゆず湯などを行い、リラックスできる入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操等で体を動かし、夜間にぐっすり眠ることができるようにしている。部屋の灯り、温度等もご本人に確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をまとめ、いつでも見られるようにしている。不明な点は訪看、調剤薬局に相談している。服薬し、変化があるようなら記録し、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や茶碗拭き、洗濯たたみ等、得意なことや興味のあること等を職員と行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調を見ながら、散歩やドライブ等に出かけている。	宮古港に寄港した客船の見学やゆったり館へのお花見ドライブなどに出かけ、利用者は大きな客船に大変喜んでいて。近くの地藏堂、八木沢神社等周辺へ散歩がてらお参りをしている。八木沢神社祭りには、子ども神輿が来訪して事業所前で楽しんでいるほか、ウッドデッキで日光浴やおしゃべりをして、やすらぎの時を過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望があれば職員が話を聞き対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度を確認し、冬季は加湿器を使用している。レク活動で季節の装飾作りを皆で行い、飾っている。	利用者は、日中は食堂兼ホールで過ごしている。絵馬や羽子板が飾られ、大型テレビの前にはソファが、その間にテーブルが配置されており、建物もまだ新しい施設内環境のもとで、それぞれが自由に過ごしている。エアコン、加湿器が設置されており、20度台前半の室内温度、50%前後の湿度を維持し、過ごしやすい環境設定で適切に管理している。清掃は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは指定席ではなく、その日の気分で座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある物を持参出来ることを入居時に説明している。写真や誕生日カードを飾ったり、仏壇を持ち込む方もいる。	居室には、ベッド、チェスト、エアコンが設置されている。その他に、利用者が持ってきたテレビや折り紙等が利用者の好みの場所に配置され、過ごしやすい空間となっている。居室の清掃は職員が行っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動や移乗の際は手すりを使い、自力でできることを行ってもらおう。		